

# インストールと移行

*iPlanet Web Server, Enterprise Edition*

**Version 6.0**

816-2141-01  
2001 年 5 月

Copyright © 2001, Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. 継承部分については Copyright © 2001, Netscape Communications Corporation Inc.

Sun、Sun Microsystems、iPlanet、iPlanet のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.(以下、米国 Sun Microsystems 社とします)の商標もしくは登録商標です。

iPlanet および iPlanet のロゴマークは Sun | Netscape Alliance の商標です。

サン のロゴマーク および Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

Netscape および Netscape の N のロゴマークは、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation 社の登録商標です。その他の Netscape のロゴマーク、製品名、およびサービス名もまた、米国の Netscape Communications Corporation の商標であり、その他の国においても登録されている可能性があります。

本製品には Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) で開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © 1999, The Apache Software Foundation. All rights reserved.

本製品にはカリフォルニア大学バークレイ校およびその貢献者によって開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © 1990, 1993, 1994, The Regents of the University California. All rights reserved.

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

#### Federal Acquisitions: Commercial Software-Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本書で説明されている製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。

Sun | Netscape Alliance の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典 : iPlanet Web Server, Enterprise Edition Installation and Migration Guide

Part No: 816-1380-01

# 目次

<b>このマニュアルについて</b> .....	7
お読みになる前に .....	7
内容の紹介 .....	8
表記上の規則 .....	8
オンラインマニュアルについて .....	9
オンラインヘルプの使用方法 .....	9
関連情報について .....	9
<b>第 1 章 iPlanet Web Server, Enterprise Edition のインストールの前に</b> .....	11
サポートするプラットフォーム .....	12
必須パッチ .....	12
ハードウェアおよびソフトウェア要件 .....	13
UNIX/Linux .....	13
Windows NT .....	14
その他の技術的要件 .....	14
サーバ用 DNS エイリアスの作成 .....	15
サーバの UNIX および Linux ユーザアカウント .....	15
サーバの Windows NT ユーザアカウント .....	16
一意のポート番号の選択 .....	17
インストールの概要 .....	18
Netscape Communicator のインストール .....	19
UNIX または Linux への Communicator のインストール .....	19
Windows NT への Communicator のインストール .....	19
iPlanet Directory Server のインストール .....	20
iPlanet Console のインストール .....	21
Java Developer's Kit のインストール .....	22
iPlanet Console から iPlanet Web Server へのアクセス .....	23
<b>第 2 章 iPlanet Web Server, Enterprise Edition の UNIX へのインストール</b> .....	25
UNIX プラットフォームへのインストール .....	25

適正なユーザでのログイン .....	25
ファイルの展開 .....	26
iPlanet Web Server, Enterprise Edition CD からのインストール .....	26
ダウンロードしたサーバのインストール .....	27
セットアッププログラムの実行 .....	28
標準またはカスタムインストール .....	28
高速インストール .....	32
複数のマシンへのインストール .....	35
テンプレートインストールの使用 .....	35
サイレントインストールの使用 .....	39
UNIX でのアンインストールの実行 .....	41
<b>第 3 章 iPlanet Web Server, Enterprise Edition の Windows NT へのインストール .....</b>	<b>43</b>
Windows NT へのインストール .....	43
ファイルの解凍 .....	44
iPlanet Web Server, Enterprise Edition CD からインストールする .....	44
ダウンロードしたサーバをインストールする .....	44
setup.exe の実行 .....	44
サイレントインストールの使用 .....	49
Windows NT でのアンインストールの実行 .....	52
<b>第 4 章 Web サーバの移行 .....</b>	<b>55</b>
iPlanet Web Server 6.0 の変更点 .....	56
構成ファイル .....	56
Java 構成ファイル .....	56
JSP (Java Server Pages) .....	57
Java Servlet .....	57
シンプルセッションマネージャ .....	57
仮想サーバ .....	58
使用されなくなった機能 .....	58
使用されなくなった obj.conf 指令 .....	59
開始スクリプトおよび停止スクリプト .....	59
構成ファイル中のシンボリックリンク (UNIX および Linux) .....	59
設定値およびデータの移行 .....	59
サーバ移行ページ .....	60
Administration Server の移行 .....	61
ユーザおよびグループ情報の移行 .....	61
仮想サーバの移行 .....	61
ACL の移行 .....	62
証明書の移行 .....	62
検索コレクションの移行 .....	62
検索パターンファイルの移行 .....	62

アプリケーションの移行 .....	63
NSAPI アプリケーションの移行 .....	63
Java サブレットの移行 .....	63
サーバサイド Java アプレット (HttpApplet) .....	64
<b>索引 .....</b>	<b>65</b>



# このマニュアルについて

このマニュアルでは、iPlanet™ Web Server, Enterprise Edition 6.0 のインストール方法および以前のバージョンの iPlanet Web Server から本バージョンへの移行方法について説明します。

この章は、次の節から構成されています。

- お読みになる前に
- 内容の紹介
- 表記上の規則
- オンラインマニュアルについて
- オンラインヘルプの使用方法
- 関連情報について

## お読みになる前に

このマニュアルは、サーバ管理者を対象としており、以下のことに関する一般的な知識を持っていることを前提とします。

- インターネットおよび WWW (World Wide Web)
- iPlanet Web Server アーキテクチャ (iPlanet Web Server の『管理者ガイド』を参照)

## 内容の紹介

このマニュアルでは、iPlanet Web Server をシステムにインストールするために必要な情報について説明します。このマニュアルでは、以前のバージョンの iPlanet Web Server がインストール済みの場合のデータの移行方法についても説明します。

操作内容	該当する章
サーバのインストール前に実行すべき操作 (サーバの動作に必要な他の製品のインストールなどを含む) について理解する	iPlanet Web Server, Enterprise Edition のインストールの前に
UNIX 上にサーバをインストールおよびアンインストールする具体的な手順を理解する	iPlanet Web Server, Enterprise Edition の UNIX へのインストール
NT 上にサーバをインストールおよびアンインストールする具体的な手順を理解する	iPlanet Web Server, Enterprise Edition の Windows NT へのインストール
iPlanet Web Server 4.x からデータおよびアプリケーションを移行する	Web サーバの移行
このマニュアルに含まれる情報を検索する	索引

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次の規則に従って表記されています。

- このマニュアルの中で iPlanet Web Server について説明している場合、Enterprise Edition を指します。
- クーリエ (Courier) フォントは、サンプルコードおよびコード一覧、API および言語要素 (メソッド名やプロパティ名など)、ファイル名、パス名、ディレクトリ名、HTML タグ、および画面に入力するすべてのテキストを示す場合に使用されます。
- 斜体 (*Italic*) フォントは、コード内では、実際の値に置き換えられるプレースホルダパラメータを表します。斜体フォントは、マニュアル名、強調、特定の文字 (例: 「*T* で始まる名前を入力します。’) や単語 (例: 「すべての製品名に *server* という単語が含まれます。’) を強調する場合にも使用されます。
- スラッシュ (/) は、パスのディレクトリの区切りとして使用されます。(Windows NT では、スラッシュとバックスラッシュの両方が使用されています。)
- 「ディレクトリ」は、UNIX 環境でのディレクトリを表すと同時に Windows 環境での「フォルダ」を指します。



## オンラインマニュアルについて

iPlanet Web Server の『インストールガイド』のオンラインマニュアル (PDF 形式および HTML 形式) も入手可能です。次の URL からファイルを表示できます。

<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/enterprise.html>

このマニュアルに記載されている情報は、iPlanet Web Server のヘルプシステムにも含まれています。詳細は、「オンラインヘルプの使用方法」を参照してください。

## オンラインヘルプの使用方法

iPlanet Web Server を使用中、iPlanet Web Server ウィンドウの「Help」をクリックすると、Web ブラウザウィンドウが開いて、ウィンドウ内のすべてのユーザインタフェースの説明が表示されます。さらに、ヘルプドキュメントの他の部分、またはドキュメントセット全体を参照することもできます。インストールプログラムにはオンラインヘルプは存在しませんが、移行画面の中にはヘルプを表示できるものがあります。

## 関連情報について

iPlanet Web Server には、このマニュアルのほかに、管理者向けの補足情報や、エンドユーザおよび開発者向けのドキュメントが含まれています。これらのドキュメントは、オンラインヘルプシステムから参照できます。オンラインヘルプを表示するには、「DocHome」ボタンをクリックしてください。

また、すべてのドキュメントをオンラインで表示することも可能です。iPlanet Web Server ドキュメントはすべて、次の URL から参照できます。

<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/enterprise.html>

利用できる iPlanet Web Server, Enterprise Edition のドキュメントを以下に示します。

- 『管理者ガイド』
- 『プログラマーズガイド』
- 『NSAPI プログラマーズガイド』
- 『サブレットに関するプログラマーズガイド』
- リリースノート

関連情報について

# iPlanet Web Server, Enterprise Edition の インストールの前に

次のセクションでは、iPlanet Web Server, Enterprise Edition をインストールする前に知っておく必要のある情報について説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- サポートするプラットフォーム
- 必須パッチ
- ハードウェアおよびソフトウェア要件
- その他の技術的要件
- インストールの概要
- Netscape Communicator のインストール
- iPlanet Directory Server のインストール
- iPlanet Console のインストール
- Java Developer's Kit のインストール

# サポートするプラットフォーム

iPlanet Web Server, Enterprise Edition は、次のプラットフォームで動作します。

表 1-1 サポートするプラットフォーム

オペレーティングシステム	アーキテクチャ	必須メモリー	必須ディスク容量
Hewlett-Packard HP-UX 11.0 (11.0 64 はバイナリ互換でのサポート)	PA-RISC	64M バイト以上	110M バイト以上
IBM AIX 4.3.3	Power PC	64M バイト以上	110M バイト以上
Sun Solaris 2.6; Solaris 8	Ultra SPARC	64M バイト以上	110M バイト以上
Microsoft Windows NT バージョン 4.0 (Service Pack 6a を適用)	Intel Pentium	64M バイト以上	110M バイト以上
Red Hat Linux 6.2 (kernel 2.2.14、glibc 2.1.2)	x86	64M バイト以上	110M バイト以上
Compaq Tru64 UNIX 5.0a (5.1 はバイナリ互換でのサポート*)	Alpha	64M バイト以上	110M バイト以上

\*iPlanet による配布およびサポートは行われません。Compaq により提供されます。

## 必須パッチ

適用する必要があるパッチおよびサービスパックに関する最新情報は、<http://docs.ipplanet.com/docs/manuals/enterprise.html> のリリースノートを参照してください。

# ハードウェアおよびソフトウェア要件

使用するコンピュータには、前述の UNIX、Linux、または Windows NT オペレーティングシステムの各メモリーおよびディスク容量要件に加え、次のハードウェアおよびソフトウェアも必要です。

## UNIX/Linux

- システムに搭載した RAM と同容量以上のスワップ領域 (RAM の 2 倍を推奨)。Linux の場合、256M バイトのスワップ領域が必要です。
- Netscape Communicator 4.72 以降、または Microsoft Internet Explorer 5.0 以降
- ブラウザで、Java および cookie を有効にする必要があります。
- Internet Explorer をご使用の場合、アクセスするたびにページの新規バージョンを確認するように設定してください。設定するには、まず「ツール」メニューの「インターネットオプション」を選択します。「全般」タブの「インターネット一時ファイル」セクション内の「設定」をクリックします。「保存しているページの新しいバージョンの確認」ラベルの下の、「ページを表示するごとに確認する」ラジオボタンをクリックします。
- iPlanet Web Server の適切な実行権限を保持する UNIX ユーザおよびグループ。このユーザは、Administration Server を実行するユーザとは異なります。この目的には、しばしばユーザ nobody およびグループ nobody が使用されますが、特定のユーザおよびグループを作成することもできます。
- 未コンパイルの Java Server Pages (JSP) を使用する場合、Java 2 Software Development Kit (SDK) をインストールする必要があります。Java 2 Software Development Kit (SDK) は、Java 開発キット (JDK) としても知られています。iPlanet Web Server の動作に必要な JDK のバージョンを次に示します。
  - Solaris: JDK 1.2.2\_07
  - Linux: JDK 1.2.2
  - HP-UX: JDK 1.2.2\_07
  - AIX: JDK 1.2.2
  - Tru64: JDK 1.2.2-8

## Windows NT

- システム上で iPlanet Web Server のインスタンスを複数実行する場合、サーバインスタンスごとにさらに 16M バイトの RAM が必要になります。
- システムに搭載した RAM と同容量以上のページング領域 (RAM の 2 倍を推奨)。
- ログファイル用に 30M バイトの空きディスク領域 (1 日に約 300,000 アクセス)。
- Netscape Communicator 4.72 以降、または Microsoft Internet Explorer 5.0 以降。
- Internet Explorer をご使用の場合、アクセスするたびにページの新規バージョンを確認するように設定してください。設定するには、まず「ツール」メニューの「インターネットオプション」を選択します。「全般」タブの「インターネット一時ファイル」セクション内の「設定」をクリックします。「保存しているページの新しいバージョンの確認」ラベルの下、「ページを表示することに確認する」ラジオボタンをクリックします。
- ブラウザで、Java および cookie を有効にする必要があります。
- iPlanet Web Server のインストール時にホスト名を使用する場合、DNS サーバ内で、使用するサーバのエントリに対応する DNS を適正に構成する必要があります。
- マシンの静的 IP アドレス。
- 未コンパイルの Java Server Pages (JSP) を使用する場合、Java 2 Software Development Kit (SDK) をインストールする必要があります。Java 2 Software Development Kit (SDK) は、Java 開発キット (JDK) としても知られています。Windows NT 用 iPlanet Web Server の動作には、JDK 1.2.2 が必要です。詳細は、「Java Developer's Kit のインストール」を参照してください。

## その他の技術的要件

iPlanet Web Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの準備ができたなら、次の要件を満たしていることを確認してください。

- 使用するサーバコンピュータのホスト名および IP アドレスを知っていること。
- サーバが DNS エイリアスを保持すること。サーバの DNS エイリアスの作成方法について詳細は、15 ページの「サーバ用 DNS エイリアスの作成」を参照してください。
- サーバが、UNIX、Linux、または NT のユーザアカウントを保持すること。詳細は、15 ページの「サーバの UNIX および Linux ユーザアカウント」または 16 ページの「サーバの Windows NT ユーザアカウント」を参照してください。
- Administration Server 用および iPlanet Web Server サーバインスタンス用の 2 つのポート番号を保持すること。サーバ用のポート番号選択方法の詳細は、17 ページの「一意のポート番号の選択」を参照してください。

## サーバ用 DNS エイリアスの作成

サーバがネットワーク内の特定のマシンで稼動する場合、ユーザまたはシステム管理者は、実際のサーバマシンを指し示す DNS CNAME レコードまたはエイリアスを設定する必要があります。サーバマシンの実ホスト名または IP アドレスは、後で変更できます。その際、サーバマシンを示す URL を変更する必要はありません。

たとえば、サーバ名を `my_server.my_company.com` とした場合、`www.my_company.com` というエイリアスを使用できます。この場合、サーバ上のドキュメントを指す URL には、`my_server` の代わりに常に `www` エイリアスが使用されます。

---

**注** DNS 名の最初には、数字ではなく、文字を指定する必要があります。

---

## サーバの UNIX および Linux ユーザアカウント

iPlanet Web Server は、インストール時に指定した UNIX または Linux ユーザアカウントを使用して起動します。サーバの子プロセスはすべて、このアカウントを所有者として作成されます。サーバの UNIX または Linux ユーザアカウントには、システムリソースへのアクセスを制限するのが最善です。このアカウントは、構成ファイルの読み取り権限および `logs` ディレクトリへの書き込み権限を必要とします。セキュリティ上の理由から、このユーザアカウントにはある種の構成ファイルへの書き込み権限を付与すべきではありません。ただし、アクセス制御ファイルなど、グループ書き込み権限を付与する必要のあるファイルも存在します。

iPlanet Web Server 専用のユーザアカウントを作成していない場合、ユーザ名 `nobody` でアカウントを使用できますが、ユーザ `nobody` に iPlanet Web Server の実行権限を付与することが望ましくない場合もあります。さらに、ユーザ `nobody` が使用できないシステムも存在します。システムによっては、ユーザ `nobody` にユーザ ID として `-2` が割り当てられます。ユーザ ID が `0` より小さいと、インストール時にエラーが発生します。`nobody` の `uid` が存在する場合、`/etc/passwd` ファイルを調べて、値が `0` より大きいことを確認してください。

---

**注** サーバ専用のアカウントを使用することを、強くお勧めします。

---

Administration Server は、インストールされたすべてのサーバの構成ファイルへの書き込み権限を持つユーザアカウントでも実行可能です。ただし、Administration Server ユーザは 1024 より小さいポート番号のサーバを起動および停止可能であるため、Administration Server を root で実行する方が簡単です (1024 より大きいポート番号は、どのユーザでも起動できます)。

iPlanet Web Server の実行に使用するユーザ (nobody であることが多い) を、Administration Server の実行に使用するユーザ (root であることが多い) と同じグループにする必要があります。

---

**注**                   サーバユーザを変更する場合、/tmp ディレクトリ内に作成された /tmp/lock.\* ファイルをすべて削除してください。

---

## サーバの Windows NT ユーザアカウント

iPlanet Web Server 用の Windows NT ユーザアカウントを作成する必要があります。このユーザアカウントは、システムリソースへのアクセスが制限されており、権限の与えられていないシステムユーザアカウント (システムへのアクセスが限定されたアクセス権限を持つユーザ) で実行されます。サーバの起動は、このユーザアカウントで実行されます。サーバが使用するサーバ拡張モジュールはすべて、このユーザアカウントを所有者として作成されます。

インストール時には、作成したユーザアカウントではなく、LocalSystem アカウントがサーバにより使用されます。サーバの起動および実行後は、作成したユーザアカウントを使用する必要があります。インストール処理後に、サーバのユーザアカウントを変更できます。別のコンピュータ上のファイルにアクセスする権限を持つように、ユーザアカウントを設定できます。これにより、サーバは、別のコンピュータからマウントしたファイルを提供できるようになります。

さらに、作成するサーバ用ユーザアカウントを、すべての iPlanet サーバのユーザを含むグループに所属させる必要があります。こうすることにより、複数のサーバで共有ファイルへのアクセスが可能になります。

---

**注**                   サーバ専用のアカウントを使用することを、強くお勧めします。

---



## 一意のポート番号の選択

複数のポート番号 (Administration Server 用に 1 つ、iPlanet Web Server の各インスタンス用に 1 つ) が必要です。Administration Server は iPlanet Web Server の特別なインスタンスで、iPlanet Web Server の管理に使用されます。この Administration Server は、iPlanet Console に同梱される Netscape Administration Server とは異なります。

標準的な Web サーバのポート番号は 80、標準的な SSL 対応の Web サーバのポート番号は 443 ですが、iPlanet Web Server はインストール時に任意のポートを設定できます。デフォルトポート (ポート 80) 以外のポートを使用する場合、ホームページへのアクセスに使用される URL が変更されます。たとえば、使用するコンピュータが `www.siroe.com` で、ポート 9753 を選択した場合、サーバの URL は、`http://www.siroe.com:9753/` になります。

Administration Server のポート番号を無作為に設定することにより、第三者のサーバへの侵入を難しくできます。サーバの構成時に、Administration Server のポート番号を使用します。たとえば、サーバが `mozilla.com` の場合、サーバの URL は `http://www.mozilla.com:2634/` のようになります。

選択するポートが使用中でないことを確認してください。UNIX および Linux システムでは、サーバマシンの `/etc/services` ファイルを調べれば、割り当てようとしているポート番号が、別のサービス用に予約されているかどうかを確認できます。別のサービスが使用中のポートを選択すると、別のポートを選択するよう促すメッセージが、インストールプログラムにより表示されます。

---

<b>注</b>	UNIX または Linux を使用していて、1024 より小さいサーバポート番号を選択した場合には、root でログインしてサーバを起動する必要があります。サーバをポートにバインドした後で、root ユーザアカウントから、指定したユーザアカウントへ変更されます。1024 より大きいポート番号を選択した場合には、root ユーザでなくてもサーバを起動できます。
----------	---

---

# インストールの概要

iPlanet Web Server は、次の iPlanet の Web サイトからダウンロードしてインストールできます。

<http://www.iplanet.com/downloads/download>

iPlanet Web Server CD からインストールすることもできます。この CD には、iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 と Netscape Communicator 4.72 の両方のインストールプログラムが収録されています。さらに、iPlanet Web Server ソフトウェアには、iPlanet Directory Server が別 CD として同梱されています。

iPlanet Web Server をインストールする際、次の基本手順に従ってください。

1. iPlanet Web Server 4.x がインストール済みで、iPlanet Web Server 6.0 への移行を計画している場合、iPlanet Web Server 4.x を停止し、すべてのファイルをサーバールートにバックアップします。

iPlanet Web Server 6.0 は、別のディレクトリにインストールする必要があります。たとえば、以前のバージョンの Web サーバが C:\netscape\server4 にインストールされている場合には、iPlanet Web Server 6.0 を C:\iplanet\servers にインストールします。

Windows NT では、サーバのインストール時に winnt\System32 に追加されたファイルおよびレジストリのコピーを保存しておくことが望ましい場合もあります。レジストリの保存方法の詳細は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

2. Communicator 4.72 以降または Internet Explorer 5.0 以降がインストールされていない場合には、いずれかをインストールします。
3. アクセス制御用のユーザおよびグループを使用する予定で、かつ iPlanet Directory Server がインストールされていない場合には、iPlanet Web Server ソフトウェアに含まれる Directory Server CD からインストールを行います。iPlanet Directory Server をインストールする場合は、iPlanet Console もインストールします。

---

<b>警告</b>	iPlanet Web Server 6.0 と iPlanet Directory Server 5.0 を同じディレクトリにインストールすることはできません。iPlanet Directory Server 5.0 を Web サーバと同じマシンにインストールする場合、iPlanet Web Server 6.0 とは異なるディレクトリにインストールする必要があります。
-----------	--

---

4. iPlanet Web Server をインストールおよび構成します。

# Netscape Communicator のインストール

サーバの管理には Netscape Communicator などの Web ブラウザを必要とするため、iPlanet Web Server をインストールする前に、Communicator または別のブラウザをマシンにインストールする必要があります。

## UNIX または Linux への Communicator のインストール

Netscape Communicator をインストールする場合、<http://home.netscape.com> からソフトウェアをダウンロードするか、次の手順に従って CD からインストールします。

1. CD-ROM ドライブに iPlanet Web Server CD-ROM を挿入し、コンピュータで使用する UNIX または Linux オペレーティングシステムのディレクトリに移動します。  
たとえば、Solaris システムを使用している場合、`cd solaris` と入力します。
2. iPlanet Web Server CD の `comm472` ディレクトリに移動します。
3. `comm472.tar` ファイルを iPlanet Web Server CD からローカルディスク上の一時ディレクトリにコピーします。
4. ローカルディスク上の一時ディレクトリに移動し、`tar -xvf comm472.tar` と入力して、`comm472.tar` ファイルを展開します。
5. コマンド行に `./setup` と入力して、Communicator のインストールを開始します。
6. 画面に表示される指示に従います。

## Windows NT への Communicator のインストール

Netscape Communicator をインストールする場合、<http://home.netscape.com> からソフトウェアをダウンロードするか、次の手順に従って CD からインストールします。

1. CD-ROM ドライブに iPlanet Web Server CD-ROM を挿入し、`ntx86` フォルダをダブルクリックします。
2. `comm472` フォルダをダブルクリックします。
3. `setup.exe` をダブルクリックします。

4. 画面に表示される指示に従います。

## iPlanet Directory Server のインストール

iPlanet Web Server で (アクセス制御用などの) ユーザおよびグループを使用する場合、iPlanet Web Server をインストールする前に iPlanet Directory Server をインストールするか、既存の LDAP サーバを使用する必要があります。

---

**警告** iPlanet Web Server 6.0 と iPlanet Directory Server 5.0 を同じディレクトリにインストールすることはできません。iPlanet Directory Server 5.0 を Web サーバと同じマシンにインストールする場合、iPlanet Web Server 6.0 とは異なるディレクトリにインストールする必要があります。

---

Directory Server の詳細は、<http://www.iplanet.com/> を参照してください。

iPlanet Directory Server のインストール方法の詳細は、Directory Server のマニュアルを参照してください。iPlanet Directory Server を CD からインストールする場合、iPlanet Directory Server の『インストールガイド』が添付されています。マニュアルは、次の URL にアクセスしてオンラインで参照することも可能です。

<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/directory.html>

---

**注** iPlanet Directory Server 5.0 は、Linux 上での動作をサポートしていません。Linux 上で動作する iPlanet Web Server で Directory Server を使用する場合、以前のバージョンの Directory Server を使用するか、UNIX または NT の稼動する別のマシンに iPlanet Directory Server 5.0 をインストールし、その Directory Server に接続するよう Web サーバを構成してください。詳細は、iPlanet Web Server の『管理者ガイド』を参照してください。

---

- 
- 注** 次の操作を行なった場合、iPlanet Directory Server および iPlanet Web Server を 1 つの Windows NT マシンにインストールできます。
- インストール時にインストールするライブラリのバージョンを尋ねられたら、常に最新のリリースを選択します。
  - いずれかの製品をアンインストールする場合、アンインストールプログラム (`uninst.exe`) のコピーを作成してからアンインストールを実行します。これは、アンインストール処理により、このプログラムが削除されてしまうためです。また、Directory Server をアンインストールする場合、その前に iPlanet Web Server をアンインストールしておく必要があります。
  - iPlanet Web Server 6.0 と iPlanet Directory Server 5.0 は、別のディレクトリにインストールする必要があります。
- 

- 
- 注** iPlanet Web Server にバンドルされる Directory Server のライセンスは限定されたもので、iPlanet Web Server で購入したサポート契約は、ライセンスにより許可される Directory Server の使用範囲に限定されます。
- 

## iPlanet Console のインストール

iPlanet Directory Server をインストールする場合は、iPlanet Console もインストールします。iPlanet Console を使用して、Directory Server を管理します。iPlanet Web Server のインストール後にスクリプトを実行すると、iPlanet Console から iPlanet Web Server にアクセスすることも可能になります。詳細は、「iPlanet Console から iPlanet Web Server へのアクセス」を参照してください。

- 
- 警告** iPlanet Web Server 6.0 と iPlanet Directory Server 5.0 を同じディレクトリにインストールすることはできません。iPlanet Directory Server 5.0 を Web サーバと同じマシンにインストールする場合、iPlanet Web Server 6.0 とは異なるディレクトリにインストールする必要があります。
- 

iPlanet Directory Server を使用しない場合、iPlanet Console や iPlanet Directory Server をインストールする必要はありません。

# Java Developer's Kit のインストール

コンパイルされていない JSP を使用する場合、Java Developer's Kit (JDK) をインストールする必要があります。Java Developer's Kit は、Java 2 Software Development Kit (SDK) という名称でも知られています。サブレットおよびコンパイル済みの JSP を使用する場合、iPlanet Web Server に付属の JRE のみ必要です。

---

**警告** HP-UX を使用する場合、iPlanet Web Server に付属の JRE、または JDK をインストールする必要があります。このいずれも存在しない場合、HP-UX iPlanet Web Server は稼動しません。

---

プラットフォームにより、使用する JDK のバージョンが異なります。必要なバージョン番号の詳細は、「ハードウェアおよびソフトウェア要件」を参照してください。

JDK を以下の場所からダウンロードします。

- Sun Solaris:  
<http://java.sun.com/products/j2se/>
- HP-UX:  
<http://www.hp.com/go/java>
- IBM AIX:  
<http://www.ibm.com/java/jdk/download/index.html>
- Compaq Tru64:  
<http://www.compaq.com/java>
- Windows NT:  
<http://java.sun.com/products/j2se/>
- Linux:  
<http://www.blackdown.org>

iPlanet Web Server のインストール前に JDK をインストールしておく、iPlanet Web Server のインストール時に JDK のパスを指定できます。また、iPlanet Web Server のインストール後に JDK をインストールすることも可能です。

インストール後に、iPlanet Web Server で使用する JRE または JDK を変更できます。Administration Server の「Global Settings」タブから、「Configure JRE/JDK Paths」ページを使用します。このページでは、JRE/JDK へのパスを変更することもできます。

# iPlanet Console から iPlanet Web Server へのアクセス

iPlanet Console から iPlanet Web Server へのアクセスを可能にしたい場合、iPlanet Web Server および iPlanet Console のインストール後に `installMCC` スクリプトを実行します。`installMCC` は perl スクリプトで、`server_root/bin/https/bin` に格納されています。

このスクリプトを実行するには、次の手順を実行します。

1. `installMCC` を `server_root/bin/https/bin` ディレクトリから iPlanet Directory Server マシンの `directory_server_root/shared/bin` にコピーします。
2. `entserv60.jar` および `entserv60_en.jar` ファイルを、`server_root/bin/https/jar` から `directory_server_root/java/jars` にコピーします。
3. 次の構文を使用して、コマンドプロンプトで `installMCC` スクリプトを実行します。

```
perl installMCC -root server_root -host hostname -port web_admin_port
-ldaphost hostname -ldapport ldap_port -basedn basedn -binddn binddn
-bindpwd bind_password
```

例を示します。

```
perl installMCC -root /usr/iplanet/servers -host
austen.red.iplanet.com -port 8888 -ldaphost
siroe.red.iplanet.com -ldapport 389 -basedn red.iplanet.com
-binddn "cn=Directory Manager" -bindpwd password
```

4. UNIX または Linux を使用している場合、iPlanet Directory Server のサーバルートに移動して、`./startconsole` を実行します。Windows NT を使用している場合、「スタート」メニューの「iPlanet Console」を選択します。

このスクリプトを実行すると、iPlanet Console のウィンドウに iPlanet Web Server が表示されます。iPlanet Console 内のアイコンをダブルクリックすると、Web ブラウザが起動して「iPlanet Web Server Administration Server」ページが表示されます。

---

**注**            \$PATH または Path で Netscape ブラウザを指定する必要があります。指定しない場合は、iPlanet Console から iPlanet Web Server Administrator を呼び出すことはできません。

---

iPlanet Console から iPlanet Web Server へのアクセス



# iPlanet Web Server, Enterprise Edition の UNIX へのインストール

この章では、UNIX システムに iPlanet Web Server をインストールする方法を説明します。次のセクションが含まれます。

- UNIX プラットフォームへのインストール
- 複数のマシンへのインストール
- UNIX でのアンインストールの実行

## UNIX プラットフォームへのインストール

このセクションでは、iPlanet Web Server を UNIX プラットフォームにインストールする方法について説明します。

---

**警告**      バージョン 6.0 のサーバは、以前のバージョンの Web サーバ用サーバルートディレクトリとは異なるサーバルートディレクトリにインストールする必要があります。

---

## 適正なユーザでのログイン

次の条件を満たしていない場合、iPlanet Web Server のインストール前には root でログインする必要があります。

- iPlanet Web Server を 1024 より大きいポートにインストールする。
- サーバのインストール位置 (サーバのルートディレクトリ) が、root 以外でログインした場合でも書き込み可能である。

- 高速インストール (Express Installation) を使用しない。

これらの条件を満たしている場合、root ではなく、Administration Server が使用するユーザアカウントでログインできます。上記の条件を満たしている場合でも、root でログインできます。

## ファイルの展開

iPlanet Web Server ファイルを取得して展開するには、次の手順を実行します。

### iPlanet Web Server, Enterprise Edition CD からのインストール

1. iPlanet Web Server, Enterprise Edition CD をドライブに挿入します。
2. CD-ROM のディレクトリに移動します。  

```
cd /cdrom
```
3. CD 上で、使用する UNIX オペレーティングシステム名のディレクトリに移動します。  

```
cd solaris
```
4. インストールディレクトリに移動します。  

```
cd enterprise
```
5. tar ファイルを、CD からホームディレクトリまたは一時ディレクトリにコピーします。

```
cp ee60sol.tar /tmp/iwsinstall
```

---

**注** ファイルを展開すると、展開先のディレクトリのアクセス権が変更されて、アプリケーションからの書き込みができなくなります。この問題を避けるには、アクセス権を変更可能なディレクトリでファイルを展開してください。たとえば、/tmp の代わりに、/tmp のサブディレクトリ (/tmp/iwsinstall など) を使用します。

---

ファイルのコピーには、時間が少しかかる場合があります。

6. ファイルをコピーした UNIX マシンのディレクトリに移動します。  

```
cd /tmp/iwsinstall
```
7. tar -xvf *filename.tar* と入力して、ファイルを展開します。  

```
tar -xvf ee60sol.tar
```

このコマンドにより、サーバファイルが展開され、一時ディレクトリ構造がカレントディレクトリに作成されます。ファイルの展開には、時間が少しかかる場合があります。ファイルの展開により、WebServer ディレクトリ、および LICENSE.txt、README.txt、setup、setup.inf、installWrapper、template.inf ファイルが作成されます。

## ダウンロードしたサーバのインストール

1. `http://www.ipplanet.com/downloads/download` からファイルをダウンロードし、一時ディレクトリに保存します。

2. ファイルをコピーした UNIX マシンのディレクトリに移動します。

```
cd /tmp/iwsinstall
```

3. `gunzip filename.tar.gz` と入力して、.gz ファイルを展開します。ファイル名は、次の形式になります。

```
ee60platform.tar.gz
```

例を示します。

```
ee60sol.tar.gz.
```

4. `tar -xvf filename.tar` と入力して、解凍したファイルを展開します。

このコマンドにより、サーバファイルが展開され、一時ディレクトリ構造がカレントディレクトリに作成されます。ファイルの展開には、時間が少しかかる場合があります。ファイルの展開により、WebServer ディレクトリ、および LICENSE.txt、README.txt、setup、setup.inf、installWrapper、template.inf ファイルが作成されます。

---

**注** ファイルを展開すると、展開先のディレクトリのアクセス権が変更されて、アプリケーションからの書き込みができなくなります。この問題を避けるには、アクセス権を変更可能なディレクトリでファイルを展開してください。たとえば、/tmp の代わりに、/tmp のサブディレクトリ (/tmp/iwsinstall など) を使用します。

---

## セットアッププログラムの実行

セットアッププログラムを実行して、iPlanet Web Server をインストールします。

インストール処理では、高速インストール (Express Installation)、標準インストール (Typical Installation)、カスタムインストール (Custom Installation) のいずれかを選択できます。通常は、標準インストール (Typical Installation) またはカスタムインストール (Custom Installation) を選択してください (この2つは同等です)。標準インストール (Typical Installation) またはカスタムインストール (Custom Installation) を選択すると、コンポーネントのインストールおよび設定をより柔軟に行えます。

ユーザが初心者であるか、製品の評価目的で使用する場合には、高速インストール (Express Installation) を選択してください。高速インストール (Express Installation) では、ポート番号やインストールするコンポーネントがあらかじめ設定されています。

インストーラを実行する際、次のコマンドを使用できます。

- 括弧で指定されたデフォルト設定 (「All」など) を受け入れる場合、Enter キーを押します。
- CTRL+B キーを押すと、前の画面に戻ります (すべての画面でこのキーシーケンスが有効なわけではありません)。
- CTRL+C キーを押すと、インストールプログラムを中止します。
- 複数の項目を選択する場合、数字をコンマで区切って入力します (例、1,2,3)。

---

**注**                    高速インストールの場合、root でログインしてセットアッププログラムを起動する必要があります。

---

### 標準またはカスタムインストール

通常は、標準またはカスタムインストールを選択してください。

セットアッププログラムを実行するには、次の手順に従います。

1. ファイルを展開したディレクトリに移動します (ファイルを展開したディレクトリにまだ移動していない場合)。
2. ./setup と入力して、サーバのインストールを開始します。

root ユーザ (スーパーユーザ) でログインしていないか、十分な書き込み権限を持っていない場合、エラーメッセージが表示されます。

開始画面が表示されます。

3. Enter キーを押して、インストールを続行します。

4. ソフトウェア使用許諾契約を受け入れる場合は「Yes」を、受け入れない場合は「No」を入力します。ライセンス条項を確認していない場合は、インストールを中止して、`setup` プログラムと同じディレクトリにある `LICENSE.txt` ファイルをお読みください。
5. 「Typical Installation」または「Custom Installation」を選択します。  
Enter キーを押します。
6. サーバルートディレクトリを入力するか、デフォルトディレクトリ (`/usr/iplanet/servers`) を受け入れます。  
このディレクトリに、サーバファイルおよびディレクトリ構造がインストールされます。  
このディレクトリへの書き込み権限を持つユーザ (例、ディレクトリ所有者) でサーバを実行する必要があります。
7. すべてのコンポーネントを選択します。  
Enter キーを押します。
8. インストールする iPlanet Web Server のサブコンポーネントを選択します。  
ここでインストールしなかったサブコンポーネントを後で使用する必要が生じた場合、インストーラを再度実行して、必要なサブコンポーネントだけをインストールできます。ただし、インストールしたサブコンポーネントを個別にアンインストールすることはできません。  
デフォルトでは、すべてのサブコンポーネントがインストールされます。  
iPlanet Web Server 4.x からの移行時にサブコンポーネントをインストールする場合、4.x でインストールしたすべてのサブコンポーネントをインストールする必要があります。そうしないと、移行が適切に行われないうえに、正常に動作しない場合があります。サブコンポーネントを追加してインストールすることもできます。  
インストールが可能なサブコンポーネントについては、以下を参照してください。

---

**警告** iPlanet Web Server を初めてインストールする場合、Server Core および Java Support サブコンポーネントをインストールする必要があります。後からサブコンポーネントを追加してインストールする場合、Core サブコンポーネントを再インストールする必要はありません。

---

Server Core: Administration Server および iPlanet Web Server の最初のインスタンスをインストールします。

**Java Runtime Environment: Administration Server** を使用する場合、および Java とサーブレットのサポートを使用する場合には、**Java Runtime Environment (JRE)** または **Java Developer's Kit (JDK)** がインストール済みである必要があります。**Java Developer's Kit** は、**Java 2 Software Development Kit (SDK)** と呼ばれます。提供された **JRE** をインストールすることも、**JDK** を独自に使用することもできます。詳細は、「**Java Developer's Kit のインストール**」を参照してください。

---

**警告** HP-UX を使用している場合、Java をインストールしなくても、**JRE** をインストールするか、**JDK/SDK** を独自に使用する必要があります。このいずれも存在しない場合、**HP-UX iPlanet Web Server** は稼動しません。

---

**Java Support: Administration Server** を使用する場合、および Java とサーブレットを使用する場合には、このサブコンポーネントをインストールします。

**iPlanet Web Server** の Java サポートを利用するには、**JRE** または **JDK/SDK** も必要です。**iPlanet Web Server** に付属の **JRE** (前のサブコンポーネントを参照) または **JDK/SDK** をインストールします。

**Search and Indexing Support:** サーバに関するドキュメントの内容および属性を検索する場合、このサブコンポーネントをインストールします。サーバ管理者は、ユーザ用にテキスト検索インタフェースをカスタマイズできます。

**SNMP Support:** **SNMP** を使用してサーバを監視する場合、このサブコンポーネントをインストールします。

9. マシン名を入力するか、デフォルトを受け入れます。
10. **iPlanet Web Server** のデフォルトインスタンスを実行するとき使用する UNIX ユーザおよびグループ名を入力します。

デフォルトのユーザおよびグループは、**nobody** です。**SNMP** を使用する場合は、ユーザ名を **root** にする必要があります。

---

**注** HP-UX では、**nobody** の **UID** は -2 になります。このプラットフォームでサーバを **nobody** で実行する必要がある場合、**nobody** の **UID** を、**UID** の最大値より小さい、一意の正の値に変更してください。

---

11. **Administration Server** の実行時に使用する UNIX ユーザ名を入力します。  
たいていの場合、このユーザは **root** です。
12. 認証に使用する **Administration Server** のユーザ名およびパスワードを入力します。  
パスワードを 2 度入力するよう求められます。

- Administration Server のポート番号を入力するか、デフォルトポート (8888) を受け入れます。

Administration Server のポート番号は、覚えておいてください。

使用が制限されないように、1024 より大きいポート番号を選択してください。Administration Server に 1024 より小さいポート番号を使用すると、root でログインしない限り、サーバを起動できなくなります。すでに使用中のポートは、選択しないでください。

iPlanet Web Server Administration Server は、他の iPlanet サーバに同梱される iPlanet Console や Administration Server とは異なります。

ポートに関する詳細は、「一意のポート番号の選択」を参照してください。

- iPlanet Web Server のポート番号を入力します。デフォルトは 80 です。このポートには、Administration Server ポートとは異なるポート番号を指定してください。root でインストールしていない場合には、ポートを規定の範囲 (1024 ~ 65535) にする必要があります。root でインストールしている場合は、1024 より小さいポート番号を使用できます。

デフォルトポート (ポート 80) 以外のポートを使用する場合、ホームページへのアクセスに使用する URL が変更されます。たとえば、使用するコンピュータが `www.iplanet.com` で、ポート 9753 を選択した場合、サーバの URL は、`http://www.iplanet.com:9753/` になります。

ポートに関する詳細は、「一意のポート番号の選択」を参照してください。

- サーバのコンテンツファイル (サーバにアクセスするユーザに提供するイメージ、HTML ドキュメントおよびデータ) を格納するルートディレクトリを入力します。デフォルトは、`server_root/docs` です。

- JDK を独自に使用する場合、「Yes」と入力します。

Java サポートをインストールする場合、JRE または JDK が必要です。提供された JRE サブコンポーネントをインストールすることも、システムにインストール済みの JDK を使用することもできます。詳細は、「Java Developer's Kit のインストール」を参照してください。

- Java サポートをインストールし、かつ提供された JRE をインストールしないか、独自の JDK を使用することにした場合、JDK をインストールしたディレクトリへの絶対パスを入力します。

指定したディレクトリに JDK があらかじめ存在している必要があります。

JDK ライブラリおよびクラスが、JDK ディレクトリ内のデフォルトディレクトリ (`/jre/lib` および `/lib`) に格納されている場合、JDK LIBPATH および JDK CLASSPATH のプロンプトで Enter キーを押します。ライブラリおよびクラスがシステム内の異なる場所に格納されている場合、そのパス名を入力します。大半のシステムでは、これらのプロンプトでパス名を入力する必要はありません。

18. インストールプログラムによる iPlanet Web Server コンポーネントの抽出およびインストールが完了したら、Enter キーを押します。
19. サーバルートディレクトリ ( 例、/usr/iplanet/servers) 内の https-admserv ディレクトリに移動し、./start と入力して Administration Server を起動します。サーバルートディレクトリで ./startconsole と入力することもできます。

startconsole により、Administration Server およびブラウザが起動して、Administration Server の管理ページが表示されます。

20. iPlanet Web Server を構成する場合、次の URL を使用します。  
http://server\_name:administration\_port

例を示します。http://www.iplanet.com:8888

管理ユーザ名およびパスワードを入力します。

これで、使用する iPlanet Web Server を構成可能になりました。詳細は、iPlanet Web Server の『管理者ガイド』を参照してください。

## 高速インストール

ユーザが初心者であるか、製品の評価目的で使用する場合には、高速インストールを選択してください。高速インストールでは、ポート番号やインストールするコンポーネントがあらかじめ設定されています。

次の表に、高速インストールでの既定値を示します。既定値とは異なる値を設定する場合は、標準またはカスタムインストールを使用してください。

表 2-1 高速インストールの設定

インストール設定	値
管理ポート	8888
管理 URL	http://machine_name:administration_port
HTTP ポート番号	80
ドキュメントのルートディレクトリ	server_root/docs
サーバを実行する UNIX ユーザ	root
LDAP ユーザおよびグループ	使用しない
JDK	なし
JRE	iPlanet Web Server に付属のデフォルト JRE
サブコンポーネント	デフォルトサブコンポーネントをすべてインストール



インストール後に、LDAP ユーザおよびグループや JDK を使用できるようにサーバを構成することができます。これらの変更方法の詳細は、iPlanet Web Server の『管理者ガイド』を参照してください。

---

**警告**      高速インストールを実行するには、root でログインする必要があります。

---

setup を実行するには、次の手順を実行します。

1. ファイルを展開したディレクトリに移動します ( ファイルを展開したディレクトリにまだ移動していない場合 )。
2. ./setup と入力して、サーバのインストールを開始します。  
開始画面が表示されます。
3. Enter キーを押して、インストールを続行します。
4. ソフトウェアのライセンス条項を受け入れる場合は「Yes」を、受け入れない場合は「No」を入力します。ライセンス条項を確認していない場合は、インストールを中止して、setup プログラムと同じディレクトリにある LICENSE.txt ファイルをお読みください。
5. 「Express Installation」を選択して Enter キーを押します。
6. サーバルートディレクトリを入力するか、デフォルトディレクトリ (/usr/iplanet/servers) を受け入れます。  
このディレクトリに、サーバファイルおよびディレクトリ構造がインストールされます。root は、このディレクトリへの書き込み権限を持っている必要があります。
7. すべてのコンポーネントを選択します。  
Enter キーを押します。
8. iPlanet Web Server のデフォルトインスタンスを実行するときに、使用する UNIX ユーザおよびグループ名を入力します。  
高速インストールの場合、このユーザは root でなければなりません。グループには、root が所属するグループを指定する必要があります。
9. Administration Server の実行時に使用する UNIX ユーザ名を入力します。  
たいていの場合、このユーザは root です。
10. 認証に使用する Administration Server のユーザ名およびパスワードを入力します。パスワードを 2 度入力するよう求められます。

iPlanet Directory Server を使用する場合、Administration Server のユーザが Directory Server 内に存在すること、ユーザおよびグループ管理タスクを実行するために Directory Server へのアクセス権限を持っていることを確認してください。

11. インストールプログラムによる iPlanet Web Server コンポーネントの抽出およびインストールが完了したら、Enter キーを押します。
12. サーバルートディレクトリ (例、/usr/iplanet/servers) 内の https-adminserv ディレクトリに移動し、./start と入力して Administration Server を起動します。サーバルートディレクトリで ./startconsole と入力することもできます。

startconsole により、Administration Server およびブラウザが起動して、Administration Server の管理ページが表示されます。

13. iPlanet Web Server を構成する場合、次の URL を使用します。  
`http://server_name:administration_port`

例を示します。`http://www.iplanet.com:8888`

管理ユーザ名およびパスワードを入力します。

これで、使用する iPlanet Web Server を構成可能になりました。詳細は、iPlanet Web Server の『管理者ガイド』を参照してください。

# 複数のマシンへのインストール

複数のマシンに iPlanet Web Server, Enterprise Edition をインストールする場合、テンプレートインストールとサイレントインストールの 2 つの方法があります。

テンプレートインストールでは、インストールプログラムをローカルマシンから実行します。インストールは、複数のリモートマシンで同時に実行されます。メッセージは表示されません。

サイレントインストールでは、最初にローカルマシンに Web サーバをインストールする必要があります。次に、リモートマシンに合わせてインストールの結果生成されたログファイル `install.inf` を編集します。サイレントインストールでは、リモートインスタンスを個別にインストールする必要があります。

このセクションでは、両方のインストール方法を説明します。

- テンプレートインストールの使用
- サイレントインストールの使用

## テンプレートインストールの使用

テンプレートインストールを使用するには、`template.inf` と呼ばれるテンプレートファイルに、各リモートマシン用のインストール設定を入力します。次にそのテンプレートを使用して、ローカルマシンの単一セッションから複数のマシンに Web サーバをインストールします。

`template.inf` ファイルは、セットアッププログラムと同じディレクトリ内にあります。

テンプレートインストールを行うには、次の手順を実行します。

1. ローカルマシンの `/.rhosts` ファイルに、Web サーバをインストールする各リモートマシン用のエントリを、次の書式で作成します。

```
remote_machine_name username
```

たとえば、リモートマシンがドメイン `dogs` の `host1` であり、`root` でログインする場合、次の情報を入力します。

```
host1.dogs.com root
```

2. ローカルマシンの `/etc/hosts.equiv` ファイルに、Web サーバをインストールする各リモートマシン用のエントリを、次の書式で作成します。

```
remote_machine_name
```

たとえば、リモートマシン名がドメイン `dogs` の `host1` である場合、次の情報を入力します。

```
host1.dogs.com
```

3. Web サーバをインストールする各リモートマシンの `/etc/hosts` ファイルに、ローカルマシンのエントリを、次の書式で作成します。

```
local_machine_name username
```

たとえば、ローカルマシン名がドメイン `dogs` の `chewbacca` であり、`root` でログインする場合、次の情報を入力します。

```
chewbacca.dogs.com root
```

4. Web サーバをインストールする各リモートマシンの `/etc/hosts.equiv` ファイルに、ローカルマシンのエントリを、次の書式で作成します。

```
local_machine_name
```

たとえば、ローカルマシン名がドメイン `dogs` の `chewbacca` である場合、次の情報を入力します。

```
chewbacca.dogs.com
```

5. ローカルマシンで、サーバルートへのリンクを持つセットアップディレクトリを作成します。

```
ln -s server_root/ setup-directory
```

6. `setup` の存在するディレクトリへ移動します。
7. `template.inf` ファイルを開きます。
8. インストール設定を入力します。

- **HostNames:** Web サーバをインストールするホスト名。コンマで区切って指定します。

```
host1,host2,host3
```

- **Components:** インストールするコンポーネント。コンマで区切って指定します。

```
Nscore, jre, snmp
```

コンポーネントリストの詳細は、「標準またはカスタムインストール」の手順 8 を参照してください。

- **SetUpLocation:** テンプレートファイルにより使用されるセットアッププログラムの場所。

```
/user/iplanet/downloads
```

ホストごとに、次の情報を入力します。

- **[hostname]:** テンプレートを使用して Web サーバがインストールされるマシン名。
- **InstallType:** 実行するインストールタイプ。高速インストールの場合は [1]、標準インストールの場合は [2]、カスタムインストールの場合は [3] のいずれかの番号を指定します。

- SuiteSpotUserID: iPlanet Web Server のデフォルトインスタンス実行時に使用されるユーザ ID。
- SuiteSpotGroup: iPlanet Web Server のデフォルトインスタンスを実行するユーザが所属するグループ。
- ServerRoot: サーバのインストール先ディレクトリ。  
/usr/iplanet/servers
- JRE\_DIR: iPlanet Web Server に付属の JRE をインストールする場合のインストール先ディレクトリ。  
/usr/iplanet/servers/bin/https/jre
- HttpDocRoot: iPlanet Web Server インスタンスのドキュメントルート。  
/usr/iplanet/servers/docs

コアサーバの場合、次の情報を入力します。

- Reinstall: このバージョンの iPlanet Web Server を再インストールする場合、True を入力します。それ以外の場合、False を入力します。
  - AdminPort: Administration Server のポート番号を入力します。
  - HttpPort: iPlanet Web Server のデフォルトインスタンスのポート。
  - AdminSysUser: Administration Server 実行時に使用されるユーザ ID。ユーザが Directory Server 内に存在すること、および Directory Server を使用してユーザおよびグループ管理タスクを実行するためのアクセス権限を持っている必要があります (例、root)。
  - AdminName: Administration Server 管理画面へのアクセスに使用されるユーザ名 (例、admin)。
  - AdminPassword: Administration Server 管理画面へのアクセスに使用されるパスワード (例、admin)。
9. コマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、インストールラッパーを実行します。

```
./installWrapper -f template.inf
```

template.inf ファイルの例を、次に示します。

```
[ MachineName]
HostNames =host1,host2
Components=Nscore,jre,java,snmp,search
SetUpLocation=/usr/iplanet/downloads

[host1]
InstallType= 2
SuiteSpotUserID=
SuitespotGroup=
SecurityCheck= False
RequireDomain= False
InstallWhich= 1
ServerRoot=/usr/iplanet/servers
HttpDocRoot=
JRE_DIR=

[host2]
InstallType= 2
SuiteSpotUserID=
SuitespotGroup=
SecurityCheck= False
RequireDomain= False
InstallWhich= 1
ServerRoot=/usr/iplanet/servers
JRE_DIR=
HttpDocRoot=/usr/iplanet/servers/docs

[core]
Reinstall= False
AdminPort=8888
HttpPort=80
AdminSysUser=
AdminName=
AdminPassword=
CompVersions= 2:2:1:2:2:1:1:2:

[cleanup]
Archive= cleanup.zip
```

## サイレントインストールの使用

サイレントインストールは複数の iPlanet Web Server インスタンスをインストールする場合、テンプレートインストールほど効率的ではありません。サーバのリモートインスタンスが、一度に複数インストールされるのではなく、個別にインストールされるためです。サイレントインストールを行う場合、セットアッププログラムのプロンプトへの応答ファイルを作成し、その後、そのファイル (`install.inf`) を編集して iPlanet Web Server のインストールに使用します。サイレントインストールでは、最初にローカルマシンに iPlanet Web Server をインストールする必要があります。次に、サーバの追加インスタンスをインストールするリモートマシンに合わせて `install.inf` を編集します。多数のリモートマシンに iPlanet Web Server をインストールする場合には、テンプレートインストールの使用をお勧めします。

サイレントインストールは、標準インストール (Typical Installation) を使用し、かつ複数マシンへのインストールがすべて類似している場合に最も効果的に機能します。

---

**警告** `install.inf` ファイルには、Administration Server へのログインに使用されるパスワードが含まれています。パスワードは、暗号化されていないプレーンテキストです。サイレントインストールを使用する場合、インストール完了後に `install.inf` ファイルを必ず削除してください。

---

サイレントインストールを行うには、次の手順を実行します。

1. `-k` オプションを付けて `Setup` を実行します。このオプションにより、インストーラのプロンプトへの応答すべてを含んでいる `install.inf` という名前のファイルが作成されます。コマンドプロンプトで、次のように入力します。  

```
./setup -k
```
2. インストーラのプロンプトに回答して、iPlanet Web Server をインストールします。
3. サーバがインストールされたら、`install.inf` ファイルの存在する `server_root/setup` ディレクトリに移動します。
4. `install.inf` ファイルを、次の iPlanet Web Server をインストールするために `Setup` を実行するディレクトリにコピーします。
5. `install.inf` ファイルの値を編集して、次にインストールするサーバの値とマッチするようにします。  
たとえば、マシン名、ポート番号、インストールディレクトリなどを変更します。
6. `install.inf` ファイルを入力用に使用して、`Setup` を実行します。例を示します。  

```
./setup -s -f install.inf
```
7. サーバのインストールが行われます。

install.inf ファイルの例を、次に示します。

```
[General]
FullMachineName= host1.iplanet.com
SuiteSpotUserID=  root
SuitespotGroup=  root
SecurityCheck=   False
RequireDomain=  False
ServerRoot=     /usr/iplanet/servers
Components=     WebServer

[WebServer]
Reinstall=      False
AdminPort=      8888
HttpPort=       80
HttpDocRoot=    /usr/iplanet/servers/docs
AdminSysUser=   root
AdminName=      admin
AdminPassword=  password
JRE_DIR=        /usr/iplanet/servers/bin/https/jre
USE_JDK=        No
CompVersions=   2:2:1:2:0:0:0:0:0:
Components=     Nescore,jre,java,cleanup

[cleanup]
Archive=        cleanup.zip
```

次の表に、編集時に役立つ install.inf ファイル用のパラメータを示します。最善の結果を得るため、この表にあるパラメータ以外は編集しないようにしてください。

表 2-2 サイレントインストールのパラメータ

パラメータ名	指定内容
FullMachineName	マシン名
SuiteSpotUserID	iPlanet Web Server のデフォルトインスタンス実行時に使用されるユーザ ID
SuiteSpotGroup	iPlanet Web Server のデフォルトインスタンスを実行するユーザが所属するグループ



表 2-2 サイレントインストールのパラメータ (続き)

パラメータ名	指定内容
ServerRoot	サーバのインストール先ディレクトリ
AdminPort	Administration Server のポート
HttpPort	iPlanet Web Server のデフォルトインスタンスのポート
HttpDocRoot	iPlanet Web Server インスタンスのドキュメントルート
AdminSysUser	Administration Server 実行時に使用されるユーザ ID
AdminName	Administration Server 管理画面へのアクセスに使用されるユーザ名
AdminPassword	Administration Server 管理画面へのアクセスに使用されるパスワード
JRE_DIR	iPlanet Web Server に付属の JRE をインストールする場合の、インストール先ディレクトリ
USE_JDK	JDK を使用するかどうかを示します。「Yes」または「No」で指定します。
JDK_DIR	JDK のインストール先ディレクトリ

## UNIX でのアンインストールの実行

アンインストールアプリケーションを使用して、コンピュータから iPlanet Web Server を削除できます。

### 警告

個別のサブコンポーネントを選択して削除することは可能ですが、お勧めしません。アンインストーラは、選択したサブコンポーネントに関するコードの一部を削除するだけで、構成ファイルの更新は行いません。このため、サブコンポーネントを個別にアンインストールすると、サーバが動作しなくなる可能性があります。

iPlanet Web Server を削除するには、次の手順を実行します。

1. サーバルートに移動して、`./uninstall` と入力します。  
その場所にインストール済みの iPlanet サーバのリストが表示されます。
2. リストで iPlanet Web Server を検索し、その番号をプロンプトに入力します。

Administration Server は iPlanet Web Server のインスタンスであるため、iPlanet Web Server をアンインストールすると、Administration Server も自動的にアンインストールされます。

インストール済みの iPlanet Web Server サブコンポーネントのリストが表示されます。

3. すべてのサブコンポーネントを選択し、Return キーを押します。

サブコンポーネントがアンインストールされ、コマンドプロンプトが表示されます。

---

**注** アンインストールプログラムは、すべてのサーバファイルを削除するわけではありません。たとえば、鍵や証明書、構成ファイル、ログ、ACL ファイルまたはドキュメントルートは、削除されません。

---

iPlanet Web Server と同じディレクトリに別の 4.x サーバ (iPlanet Directory Server や Messaging Server など) がインストール済みの場合、アンインストール時に次の手順を実行してください。

1. アンインストールスクリプト (uninstall) を別のファイル (例、uninstslapd) にコピーします。
2. uninstall スクリプトを使用して、iPlanet Web Server をアンインストールします。
3. uninstslapd の名前を uninstall に変更します。
4. uninstall スクリプトを使用して、Directory Server をアンインストールします。

iPlanet Web Server 4.x から iPlanet Web Server 6.0 に移行した場合、4.x をアンインストールしようとする、4.x で使用されていたファイルではなく、6.0 で使用されていたファイルが削除されます。これらのファイルは、手動で削除する必要があります。

# iPlanet Web Server, Enterprise Edition の Windows NT へのインストール

この章では、Windows NT に iPlanet Web Server をインストールする方法について説明します。次のセクションが含まれます。

- Windows NT へのインストール
- サイレントインストールの使用
- Windows NT でのアンインストールの実行

## Windows NT へのインストール

このセクションでは、iPlanet Web Server のインストールする方法について説明します。

サーバの起動時に発生するエラーは、イベントビューアに記録されます。サーバ起動後のエラーは、通常のエラーログファイルに記録されます。

次の点に注意してください。

- 以前のバージョンの Netscape または iPlanet Web サーバがインストールされている場合は、6.0 の iPlanet Web Server を別のサーバルートディレクトリにインストールする必要があります。
- ベータ版の iPlanet Server がインストールされている場合は、アンインストールしてから最新バージョンをインストールします。
- DLL の競合を回避するため、iPlanet Web Server 6.0 を iPlanet Web Server 4.x と同じマシンにインストールする場合は、iPlanet Web Server 6.0 への移行後に 4.x をアンインストールします。iPlanet Web Server 4.x をアンインストールする際、共有 d11 ファイルを削除しないでください (メッセージが表示されたら、「すべていいえ (No to All)」を選択します)。削除すると、あとで iPlanet Web Server 6.0 をアンインストールする際に障害が発生します。

- 以前のバージョンの Netscape または iPlanet Web サーバがインストールされている場合は、Administration Server および Enterprise Server インスタンスを停止してから、iPlanet Web Server 6.0 をインストールします。
- iPlanet Directory Server または Messaging Server と iPlanet Web Server の両方を同じマシンにインストールする場合、Web サーバのインストール中にどのバージョンのライブラリをインストールするか尋ねられたら、system32\libplc.dll 以外は、常にリリース日付が最新のライブラリを選択します。
- サーバは、TEMP 環境変数で指定されたドライブに解凍されます。インストールを始める前に、TEMP が指定するデバイスに十分な空き容量があることを確認します。

## ファイルの解凍

iPlanet Web Server ファイルを入手して解凍するには、次の手順に従います。

### iPlanet Web Server, Enterprise Edition CD からインストールする

1. iPlanet Web Server, Enterprise Edition CD をドライブに挿入します。CD-ROM ドライブのアイコンをクリックします。
2. ntx86 フォルダをダブルクリックします。
3. enterprise フォルダをダブルクリックします。  
setup.exe ファイルがこのフォルダ内にあります。

### ダウンロードしたサーバをインストールする

1. ee60nt.exe ファイルを一時ディレクトリにダウンロードして保存します。  
このファイルをダブルクリックして解凍し、インストールプログラムを起動します。

## setup.exe の実行

setup.exe プログラムを実行し、iPlanet Web Server をインストールします。

1. setup.exe ファイルをダブルクリックします (ファイルをダウンロードした場合は、ダウンロードしたファイルをダブルクリックすると自動的に起動します)。
2. 「ようこそ」画面が表示されます。「ようこそ」画面を読み終えたら、「次へ」をクリックします。
3. ソフトウェア使用許諾契約が表示されます。「はい」をクリックして契約に同意します。

4. 「インストールの種類」画面が表示されます。インストールのタイプを選択します。インストールのタイプには、「高速」、「標準」、および「カスタム」があります。

ユーザが初心者であるか、製品の評価目的で使用する場合には、高速インストール (Express Installation) を選択してください。高速インストールでは、ポート番号やインストールするコンポーネントがあらかじめ設定されています。このオプションは、本稼動環境でサーバを使用する場合にはお勧めできません。

標準インストール (Typical Installation) およびカスタムインストール (Custom Installation) には、このリリースでも多数のオプションが用意されています。

「高速」インストールを選択すると、次の設定値が自動的に設定されます。別の設定値が必要な場合は、「標準」または「カスタム」インストールを選択します。

表 3-1 高速インストールの設定値

インストールの設定	値
管理ポート	8888
管理 URL	<code>http://machine name:administration port</code>
HTTP ポート番号	80
ドキュメントのルートディレクトリ	<code>server_root/docs</code>
LDAP ユーザおよびグループ	使用しない
JDK	なし
JRE	iPlanet Web Server に付属のデフォルト JRE
サブコンポーネント	デフォルトサブコンポーネントをすべてインストール

**警告**      すでにポート 80 でほかの Web サーバが動作している場合は、高速インストールを使用しないでください。

「次へ」をクリックします。

5. 「インストール場所」ダイアログボックスが表示されます。サーバファイルのデフォルトの場所は、`C:\iplanet\servers` です。この `C:` はサーバをインストールするドライブを表します。

デフォルト以外の場所に iPlanet Web Server をインストールする場合は、フィールドに名前を入力します。存在しないフォルダを指定すると、インストールプログラムはフォルダを作成するかどうか尋ねます。

「次へ」をクリックします。

6. 「インストールするコンポーネント」ダイアログボックスが表示されます。リストから **iPlanet Web Server, Enterprise Edition** を選択します。Administration Server は iPlanet Web Server インスタンスになっているので、iPlanet Web Server のインストール時に自動的にインストールされます。したがってこの製品リストには含まれていません。

---

**注** デフォルトでは、サブコンポーネントのデフォルトセットがインストールされます。インストールするサブコンポーネントを変更する場合は、「変更」をクリックして手順7に進みます。

---

サブコンポーネントを変更しなかった場合、またはサブコンポーネントの選択が完了した場合は、「次へ」をクリックして手順8に進みます。

iPlanet Web Server 4.x からの移行時にサブコンポーネントをインストールする場合、4.x でインストールしたすべてのサブコンポーネントをインストールする必要があります。そうしないと、正常に動作しない場合があります。他のサブコンポーネントを追加してインストールすることもできます。

7. 前の画面で「変更」をクリックすると、「インストールするサブコンポーネント」ダイアログボックスが表示されます。横にあるボックスにチェックを付けると、インストールするサブコンポーネントを選択できます。ボックスのチェックを外すと、そのサブコンポーネントはインストールされません。チェックを付けなかったサブコンポーネントをあとでインストールする場合は、もう一度インストーラを起動し、追加するサブコンポーネントだけを選択してインストールします。ただし、一度インストールしたサブコンポーネントを個別にアンインストールすることはできません。

サブコンポーネントを選択したら、「継続」をクリックします。

デフォルトでは、すべてのサブコンポーネントがインストールされます。選択が完了したら、「インストールするコンポーネント」ダイアログボックスに戻ります (手順6)。

---

**警告** 初めて iPlanet Web Server をインストールするときは、**Server Core** および **Java and Servlets** サブコンポーネントをインストールする必要があります。あとで他のサブコンポーネントを追加してインストールする場合は、**Core** サブコンポーネントをインストールし直す必要はありません。

---

**Server Core:** このサブコンポーネントをインストールすることによって、Administration Server および iPlanet Web Server の最初のインスタンスをインストールします。

**Java Runtime Environment:** Administration Server を使用する場合、および Java とサーブレットのサポートを使用する場合には、JRE または JDK が必要です。提供された JRE サブコンポーネントをインストールするか、すでにシステムにインストールされている JDK を使用できます。独自の JDK を使用する場合は、あとでインストール中にパスを指定する必要があります。詳細は、「Java Developer's Kit のインストール」を参照してください。

**Java and Servlets:** Administration Server を使用する場合、および Java と Servlet を使用する場合には、このサブコンポーネントをインストールします。

**Search and Indexing:** サーバに関するドキュメントの内容と属性を検索する場合、このサブコンポーネントをインストールします。サーバ管理者は、ユーザ用にカスタマイズしたテキスト検索インタフェースを作成できます。

**SNMP:** SNMP を使用してサーバを監視する場合、このサブコンポーネントをインストールします。

8. 「iWS Administration Server Authentication」ダイアログボックスが表示されます。Administration Server アクセス用のユーザ名を入力します。デフォルトは「admin」です。Administration Server アクセス用のパスワードを入力します。確認のためパスワードをもう一度入力します。

「次へ」をクリックします。

LDAP ベースの認証を使用する場合は、このユーザが LDAP サーバにアクセスしてユーザまたはグループの管理タスクを実行する権限を持っていることを確認する必要があります。

高速インストール (Express Installation) を選択した場合は、手順 12 に進みます。

9. 「iWS Administration Server Port Selection」ダイアログボックスが表示されます。Administration Server を実行するポート番号を入力します。1 から 65535 の任意の番号を使用できます。管理アクセス用の URL が表示されます。この URL をメモしておくことをお勧めします。デフォルトポートは 8888 です。

システムに iPlanet Web Server 4.x がインストールされている場合、iPlanet Web Server 4.x に使用したのと同じ Administration Server ポート番号を iPlanet Web Server 6.0 に使用しないでください。

ポートについては、「一意のポート番号の選択」を参照してください。

「次へ」をクリックします。

10. 「Default Web Server」ダイアログボックスが表示されます。iPlanet Web Server のデフォルトインスタンスが自動的にインストールされます。

iPlanet Web Server のデフォルトインスタンスのポート番号を入力します。このポートは、Administration Server のポートとは別にする必要があります。デフォルトポート (ポート 80) 以外のポートを使用する場合、ホームページへのアクセスに使用する URL が変更されます。たとえば、使用するコンピュータが `www.ipplanet.com` でポート 9753 を選択した場合、サーバの URL は、`http://www.ipplanet.com:9753/` になります。

---

**警告**           すでにポート 80 でほかの Web サーバが動作している場合は、ポート 80 を使用しないでください。

---

ポートについては、「一意のポート番号の選択」を参照してください。

デフォルトサーバのプライマリドキュメントディレクトリのパスを入力します。このディレクトリにはサーバのコンテンツファイル (サーバにアクセスするユーザに提供するイメージ、HTML ドキュメントおよびデータ) を格納しています。デフォルトは、`C:/server_root/docs` です。「参照」をクリックしてファイルシステムを移動します。

11. Java およびサーブレットサブコンポーネントをインストールする場合 (デフォルトでインストールされます)、「JDK 設定」ダイアログボックスが表示されます。iPlanet Web Server で Java を使用する場合は、Java ランタイム環境 (JRE) または Java Development Kit (JDK または SDK) をインストールする必要があります。iPlanet Web Server に付属の JRE を使用するか (詳細は、手順 7 を参照)、すでにシステムにインストールされているカスタム JDK を使用できます。

カスタム JDK を使用するには、「カスタム Java Development Kit を使用」チェックボックスをクリックし、JDK をインストールしたフォルダの絶対パスを入力します。JDK のデフォルト以外のライブラリパスまたはクラスパスを使用する場合は、正しいパスをここに入力します。たとえば、`D:\jdk1.3\` のように入力します。

12. 「設定情報のサマリー」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、iPlanet Web Server および Administration Server の設定に関する情報が含まれています。また、インストール対象として選択した iPlanet Web Server コンポーネントのリストも含まれています。

このダイアログボックスを使用して、インストールを完了する前に設定内容を確認できます。設定内容が正しければ、「Install」をクリックします。設定内容を変更する場合は、「戻る」をクリックして情報を修正します。

サーバファイルがインストールされます。「インストールの完了」ダイアログボックスが表示されます。

Administration Server および Web Server を使用するには、コントロールパネルの「サービス」から起動させるか、マシンを再起動して自動的に起動させます。



---

**注** ファイルのコピー中は、インストールプロセスを中止しないでください。コピー中に中止すると、インストールが不完全になり、ファイルを削除する必要があります。**iPlanet Web Server** のアンインストーラがある場合は、そのアンインストーラを使用してインストールされた **iPlanet Web Server** をアンインストールします。アンインストーラがない場合は、手動でサーバー root のすべてのファイルを削除します。

---

13. 「完了」をクリックします。
14. マシンを再起動するか、コントロールパネルの「サービス」を使用して **iPlanet Web Server** を起動します。
15. **iPlanet Web Server** を構成するには、次の URL を使用します。  
`http://server_name:administration_port`  
例: `http://www.iplanet.com:8888`  
管理ユーザ名とパスワードを入力してサーバを管理します。

これで、使用するサーバを構成可能になりました。詳細は、**iPlanet Web Server** の『管理者ガイド』を参照してください。

## サイレントインストールの使用

複数の **iPlanet Web Server** をインストールする場合、サイレントインストールを使用して、セットアッププログラムのプロンプトに回答するファイルを作成できます。その `install.inf` ファイルを編集して、以降の **iPlanet Web Server** のインストールに使用できます。

サイレントインストールは、標準インストール (Typical Installation) を使用し、かつ複数マシンへのインストールがすべて類似している場合に最も効果的に機能します。

---

**警告** `install.inf` ファイルには、Administration Server へのログインに使用するパスワードが含まれています。パスワードは、暗号化されていないプレーンテキストです。サイレントインストールを使用する場合、インストール完了後に `install.inf` ファイルを必ず削除してください。

---

**iPlanet Web Server, Enterprise Edition** は自己解凍の `.exe` ファイルとしてダウンロードされるので、`setup.exe` を実行する前にまずファイルを解凍する必要があります。このファイルを解凍するには、次の手順を実行します。

1. 自己解凍の .exe ファイルをダブルクリックしてインストーラを起動します。
2. インストーラを起動すると、ファイルが TEMP ディレクトリに解凍されます。インストーラを終了しないで、TEMP ディレクトリに移動し、インストールファイルを別の場所にコピーします。
3. ファイルをコピーしたら、インストーラを終了します。

これで、コピーした setup.exe を使用して install.inf ファイルを作成できます。

サイレントインストールを使用するには、次の手順に従います。

1. コマンドラインから、-k オプションを付けてセットアップを実行します。このオプションにより、インストーラのプロンプトへの応答すべてを含んでいる install.inf というファイルが作成されます。コマンドプロンプトに次のように入力します。

```
setup.exe -k
```

2. インストーラのプロンプトに答えながら iPlanet Web Server をインストールします。
3. サーバがインストールされたら、install.inf ファイルの存在する *server\_root/setup* ディレクトリに移動します。
4. install.inf ファイルを、次の iPlanet Web Server をインストールするために Setup を実行するディレクトリにコピーします。
5. install.inf ファイルの値を編集して、次にインストールするサーバの値とマッチするようにします。

たとえば、ポート番号やインストールディレクトリなどを変更します。

6. install.inf ファイルを入力用に使用して、Setup を実行します。

例:

```
setup.exe -s -f install.inf
```

7. サーバのインストールが行われます。

install.inf ファイルの例を次に示します。

```

[General]
Components=svrcore,WebServer
ServerRoot=D:\iplanet\Servers
[WebServer]
Components=NESSCore,JRE,Java,Cleanup
AdminPort=8888
HttpPort=80
HttpDocRoot=D:\iplanet\Servers\docs
AdminName=admin
AdminPassword=admin
[Java]
JRE_DIR=D:/iplanet/servers/bin/https/jre
[Cleanup]
Archive=cleanup.zip

```

次の表に、編集時に役立つ `install.inf` ファイルで使用するパラメータを示します。最善の結果を得るため、この表に載せられたパラメータ以外は編集しないようにしてください。

表 3-2 サイレントインストールのパラメータ

パラメータ名	指定内容
ServerRoot	サーバのインストール先ディレクトリ
AdminPort	Administration Server のポート
HttpPort	iPlanet Web Server のデフォルトインスタンスのポート
HttpDocRoot	iPlanet Web Server インスタンスのドキュメントルート
AdminName	Administration Server 管理画面へのアクセスに使用されるユーザ名
AdminPassword	Administration Server 管理画面へのアクセスに使用されるパスワード
JRE_DIR	iPlanet Web Server に付属の JRE をインストールする場合の、インストール先ディレクトリ
JDK_DIR	JDK のインストール先ディレクトリ

# Windows NT でのアンインストールの実行

アンインストールアプリケーションを使用して、コンピュータから iPlanet Web Server を削除できます。アンインストールアプリケーションを使用すると、マシンにインストールされているサーバを判別し、削除するサーバを選択できます。

---

**警告** 個別のサブコンポーネントを選択して削除することは可能ですが、お勧めしません。アンインストーラは、選択したサブコンポーネントに関するコードの一部を削除するだけで、構成ファイルの更新は行いません。このため、サブコンポーネントを個別にアンインストールすると、サーバが動作しなくなる可能性があります。

---

iPlanet Web Server を削除するには

1. サーバルートに移動し、`uninst.exe` プログラムをダブルクリックします。
2. 「iPlanet Uninstall」ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、このディレクトリにインストールされている iPlanet サーバがすべて一覧表示されます。iPlanet Web Server, Enterprise Edition の横のチェックボックスを選択し、「Uninstall」をクリックします。iPlanet Web Server をアンインストールすると、Administration Server が自動的にアンインストールされるので注意してください。これは、Administration Server が iPlanet Web Server のインスタンスであるためです。
3. アンインストールプログラムによってサーバがアンインストールされます。ウィンドウにアンインストールの進行状況が表示されます。
4. アンインストールが完了すると、構成ファイルが削除されていないこと、およびサーバをインストールし直す前に構成ファイルの名前を変更する必要があることを示すメッセージが表示されます。

構成ファイルに特別な設定をしている場合は、ファイルの名前を変更すれば、サーバをインストールし直したあとでもそれらのファイルにアクセスできます。ファイルの名前を変更しない場合、サーバをインストールし直すことはできません。

5. システムを再起動します。iPlanet Web Server をインストールし直す前に再起動する必要があります。

アンインストール中に、「内部エラーが発生したため、ウィンドウが閉じられました。作業を保存し、すべてのプログラムを終了してからコンピュータを再起動してください。」というエラーが表示されることがあります。このメッセージが表示された場合は、アンインストールを続行してください。アンインストールプロセスの一部として再起動を行うので、あえて再起動する必要はありません。

---

**注** アンインストールプログラムは、すべてのサーバファイルを削除するわけではではありません。たとえば、鍵や証明書、構成ファイル、ログ、ACL ファイルまたはドキュメントルートは、削除されません。

---

4.x サーバ (iPlanet Directory Server、Messaging Server など) を iPlanet Web Server と同じマシンにインストールしている場合、同じディレクトリにサーバをインストールしていれば、サーバのアンインストールに問題はありません。サーバを別のディレクトリにインストールしている場合は、次の手順に示すように、iPlanet Web Server を最初にアンインストールし、アンインストール前には DLL ファイルのコピーを保存しておく必要があります。

1. NSLDAP32V50.DLL を一時ディレクトリにコピーします。
2. iPlanet Web Server をアンインストールします。
3. NSLDAP32V50.DLL を、Directory Server がインストールされているディレクトリに戻します。
4. Directory Server をアンインストールします。



# Web サーバの移行

次の iPlanet Web Server 4.x 情報を移行して、iPlanet Web Server 6.0 で使用できます。

- ローカルデータベースに格納されているすべてのユーザ情報およびグループ情報 (移行する場合)
- ドキュメントルートおよびその他のディレクトリマッピング
- 構成スタイル情報
- ソフトウェアおよびハードウェアの仮想サーバ設定
- 検索コレクション
- 検索パターンファイル
- アクセス制御リスト (ACL) 情報
- SSL (Secure Socket Layer) 情報
- 証明書および鍵
- NSAPI 情報
- サーブレット
- JSP (JavaServer Pages)
- シンプルセッションマネージャおよび JDBC セッションマネージャ (使用は推奨していません)
- サーバサイド HTML (SHTML)

---

**注**

一般に、このドキュメントで iPlanet Web Server 4.x に言及する場合、その情報は、iPlanet Web Server 4.0 および 4.1 だけでなく、それらのサービスパツクリリースにも当てはまります。たとえば、iPlanet Web Server 4.0, SP6 や iPlanet Web Server 4.1, SP 6 などがあります。

---

# iPlanet Web Server 6.0 の変更点

iPlanet Web Server 4.x から iPlanet Web Server 6.0 に情報を移行すると、次の領域で変更が生じます。

- 構成ファイル
- JSP (Java Server Pages)
- Java Servlet
- Java 構成ファイル
- シンプルセッションマネージャ
- 仮想サーバ

## 構成ファイル

iPlanet Web Server 4.x の `magnus.conf` ファイルにある指令は、iPlanet Web Server 6.0 では `server.xml` ファイルに置かれます。移行プロセス中に、これらの指令は自動的に 6.0 サーバの `magnus.conf` ファイルから削除され、`server.xml` ファイルに追加されます。

また、iPlanet Web Server 4.x の `obj.conf` ファイルにある `Init` 関数は、iPlanet Web Server 6.0 の `magnus.conf` ファイルに移されます。

## Java 構成ファイル

Java サブコンポーネントのインストール時にインストールされる構成ファイルには、`.default` で終わるファイルのセットが含まれます。これらのファイルは、下位互換のためだけに保持されており、iPlanet Web Server 6.0 で使用することは推奨していません。これらのファイルは、今後のバージョンではサポートされない可能性があります。iPlanet Web Server 6.0 では、iPlanet Web Server の『サーブレットに関するプログラマーズガイド』で説明されているように、Web アプリケーションで Servlet および JSP を作成し、`web-apps.xml` ファイルを使用して構成します。`.default` ファイルは使用しません。古い `.default` ファイルのプロパティ、仮想サーバごとの `web-apps.xml`、および標準 Servlet 2.2 配置記述子の `web.xml` 間のマッピングについては、iPlanet Web Server の『プログラマーズガイド』を参照してください。



## JSP (Java Server Pages)

iPlanet Web Server 4.0 では、JSP (Java Server Pages) は JSP 0.92 で記述しました。iPlanet Web Server 4.1 および 6.0 では、JSP は JSP 1.1 で記述します。バージョン 0.92 は、iPlanet Web Server 6.0 ではサポートされていません。JSP は、バージョン 1.1 標準で記述する必要があります。また、JSP は Web アプリケーションの一部として作成することをお勧めします。スタイル例は、`server_root/plugins/servlets/examples/web-apps` にあります。

0.92 で記述した JSP も、それが存在する古いバージョンのディレクトリを指定しておけば、iPlanet Web Server 6.0 で動作します。古いバージョンのディレクトリを指定するには、クラスマネージャにアクセスし、「Services」タブをクリックして、「Legacy JSP Directory」をクリックします。このページを使用して、古いバージョンのディレクトリを指定します。

Web アプリケーションの一部として JSP 1.1 で記述された JSP は、サーバで使用可能なディレクトリならどこにでも置くことができます。

JSP 1.1 のサンプルは、`server_root/plugins/servlets/examples/legacy/jsp.10` にあります。

## Java Servlet

iPlanet Web Server 6.0 では、4.1 スタイルの Servlet 構成の使用は推奨していませんが、`servlets.properties`、`rules.properties`、および `contexts.properties` ファイルを使用して下位互換を保持しています。これらのファイルは、今後のリリースではサポートされない可能性があります。詳細は、iPlanet Web Server の『サブレットに関するプログラマーズガイド』を参照してください。

## シンプルセッションマネージャ

シンプルセッションマネージャおよび JDBC セッションマネージャは、iPlanet Web Server 6.0 でサポートされていますが、使用は推奨していません。代わりに、IWS セッションマネージャの使用をお勧めします。詳細は、iPlanet Web Server の『サブレットに関するプログラマーズガイド』を参照してください。

iPlanet Web Server 4.x の Web アプリケーションで `SimpleSessionManager` が指定されている場合は、クラスの名前を `IWSSessionManager` に変更する必要があります。これにより、持続性を強化できます。`timeOut` や `reapInterval` など、ほかの `Init` 属性は変更されません。

iPlanet Web Server 4.x の Web アプリケーションで `JDBCSessionManager` が指定されている場合は、クラスの名前を `IWSSessionManager` に変更して、次の属性をセッションマネージャの `init-param` 要素に追加する必要があります。  
`session-data-store='com.iPlanet.server.http.session.JdbcStore'`

provider や url など、ほかの属性は変更されません。

iPlanet Web Server 4.x の Web アプリケーションで MMapSessionManager がセッションマネージャのクラス名として指定されている場合は、アプリケーションに変更はありません。

## 仮想サーバ

iPlanet Web Server 4.x では、ハードウェアおよびソフトウェアの仮想サーバを使用して複数のサーバインスタンスを作成できましたが、これらのインスタンスでは同じ構成情報を共有する必要がありました。iPlanet Web Server 6.0 では、仮想サーバのクラスを複数設定できます。各クラスには、それぞれ個別の構成情報があります。

仮想サーバの設定値は、*server\_root/server\_ID/config* ディレクトリにある *server.xml* ファイルに格納されています。仮想サーバについては、iPlanet Web Server の『管理者ガイド』を参照してください。

## 使用されなくなった機能

iPlanet Web Server 4.x の次の機能は、iPlanet Web Server 6.0 ではサポートされていません。

- WAI
- Web パブリッシング
- サーバサイド JavaScript (SSJS)/LiveWire

これらの機能のデータおよび設定値は移行されません。

SSJS アプリケーションを JSP に変換する方法の補足説明については、iPlanet Web Server の『サーブレットに関するプログラマーズガイド』を参照してください。また、変換したアプリケーションのサンプルは *server\_root/plugins/servlets/examples/legacy/jsp.10/hangman* にあります。

## 使用されなくなった obj.conf 指令

次の指令は、iPlanet Web Server 6.0 では使用されません。移行プログラムは 4.x サーバの obj.conf ファイルにそれらの指令を検出しても 6.0 サーバに移行しません。

- Init 指令 : iPlanet Web Server 4.x の Init 指令は、自動的に 4.x の obj.conf ファイルから iPlanet Web Server 6.0 の magnus.conf ファイルに移されます。
- NameTrans 指令 :
  - es-search-nametrans
  - publisher
  - document-root

## 開始スクリプトおよび停止スクリプト

4.x サーバの開始スクリプトまたは停止スクリプトを修正した場合、それらの変更内容は移行プログラムでは移行されません。

## 構成ファイル中のシンボリックリンク (UNIX および Linux)

サーバ構成ファイル中のシンボリックリンクまたは相対リンクは、アップグレード時に障害の原因となる場合があります。サーバルート下にあるファイルへの絶対参照を含むサーバ構成ファイルでは、常に同じ方法でサーバルートへのパスを参照します。できれば、シンボリックリンクが含まれないようにしてください。

## 設定値およびデータの移行

---

**警告**      移行の前にすべてのサーバインスタンスを停止してください。

---

設定値およびデータを 4.x サーバから 6.0 サーバに移行するには、次の手順に従います。

1. 「Administration Server」 ページで、「Services」 タブをクリックします。
2. 「Migrate Server」 をクリックします。

3. 移行元サーバのサーバルートを入力して「Search」をクリックします。

例:

```
/usr/netnscape/server4
```

```
C:\netscape\server4
```

iPlanet Web Server は、指定したディレクトリにインストールされているサーバインスタンスがあるかどうかを検出し、移行可能なサーバをインストール済みサーバ一覧セクションに表示します。Administration Server を移行することはできません。

4. ドロップダウンリストからサーバを選択し、「Migrate」をクリックします。

移行パラメータを示す新しいウィンドウが表示されます。

5. フォームに入力します。

フォームに表示されるセクションは、の iPlanet Web Server 4.x で使用している機能、およびインストールした 6.0 のコンポーネントによって異なります。次に、表示される可能性のあるパラメータセクションを示します。

- 一般的な移行パラメータ
- ユーザおよびグループ
- ドキュメントルート
- 検索コレクション
- 検索パターンファイル
- 鍵および証明書

詳細は、オンラインヘルプの「Migration Parameters Page」を参照してください。

6. 「Migrate」をクリックします。

「Migrate Server\_name」ページが表示されます。正常に移行されたパラメータおよび手動で移行する必要のあるパラメータを含め、移行の結果が表示されます。6.0 ではサポートされない 4.x サーバの機能も表示されます。

7. 「Configure Migrated Server」をクリックし、移行されたサーバインスタンスをサーバマネージャで構成するか、「Close」をクリックして移行ウィンドウを閉じます。

## サーバ移行ページ

移行時には、発生したエラーを含め、すべての移行情報を記録するページ（「Migrate Server\_name」）が表示されます。iPlanet Web Server 4.x で使用した機能で iPlanet Web Server 6.0 ではサポートされない機能に関する警告が表示されます。移行プログラムは、obj.conf のエントリのうち、使用されなくなった機能に関するものは移行しません。

移行時に重大なエラーが発生しても、移行は続行されます。発生したエラーが結果のページに表示されるので、この情報を障害追跡に使用できます。

## Administration Server の移行

移行できるのは、個々のサーバインスタンスに限られます。Administration Server を移行することはできません。iPlanet Web Server インスタンスの移行後に、6.0 の Administration Server で分散管理やクラスタなどの機能をもう一度設定する必要があります。

iPlanet Web Server インスタンスの移行時に、複数のサーバインスタンスに関するユーザおよびグループ情報を移行するかどうか選択できます。一度ユーザおよびグループ情報を移行するか、6.0 環境を設定すれば、ユーザおよびグループ情報を再度移行する必要はありません。ユーザおよびグループ情報は、`/server_root/userdb/server_name.ldif` ファイルにあります。

鍵および証明書も移行できます。

## ユーザおよびグループ情報の移行

Directory Server を使用した場合、ユーザおよびグループを移行するために移行プロセス中は何もする必要はありません。移行後に、Administration Server の「Global Settings」タブで、「ディレクトリサービスの設定」ページを使用して Directory Server を指定できます。4.x または 5.0 の Directory Server を使用する必要があります。

## 仮想サーバの移行

iPlanet Web Server 4.x では、ハードウェア仮想サーバを作成する方法が 2 つありました。obj.conf を使用する方法と virtual.conf を使用する方法です。ハードウェア仮想サーバの情報を移行する方法は、どちらの方法を使用したかによって異なります。

- obj.conf を使用して iPlanet Web Server 4.x のハードウェア仮想サーバを作成した場合、それらのハードウェア仮想サーバの設定値は、4.x の obj.conf ファイルから 6.0 の server.xml ファイルに移行されます。
- virtual.conf を使用して iPlanet Web Server 4.x のハードウェア仮想サーバを作成した場合、それらのハードウェア仮想サーバの設定値は、4.x の virtual.conf ファイルから 6.0 の server.xml ファイルに移行されます。

iPlanet Web Server 4.x ソフトウェアの仮想サーバ設定は、4.x の obj.conf ファイルから 6.0 の server.xml ファイルに移行されます。

## ACL の移行

iPlanet Web Server 6.0 には、es-internal と呼ばれるデフォルト ACL があり、ヘルプファイルや画面アイコンなど、iPlanet Web Server の内部ファイルに対する変更権限を制御します。この新しいデフォルト ACL は、移行時に追加されます。

Administration Server 4.x で分散管理用に ACL を設定した場合、それらの ACL は移行されません。これらの ACL は、手動で新しい Administration Server に追加する必要があります。

## 証明書の移行

移行プロセスにより、4.x\_server\_root/https-server\_id ディレクトリにある key3.db や cert7.db などのデータベースファイルは、6.0\_server\_root/https-server\_id ディレクトリにコピーされます。

また、4.x サーバの magnus.conf ファイルにある SSL パラメータは、自動的に 6.0 の server.xml 構成ファイルに追加されます。

iPlanet Web Server での証明書の使用については、iPlanet Web Server の『管理者ガイド』を参照してください。

## 検索コレクションの移行

検索コレクションがある場合は、どれを移行するか選択する必要があります。「Migration Parameters」ページには、移行するコレクションを選択するためのチェックボックスがあります。サーバの移行時にコレクションを移行しない場合、あとで移行し直すことはできません。

古いドキュメントルートを使用を選択する場合は、移行した検索コレクションは自動的に機能します。古いドキュメントルートの代わりに新しいドキュメントルートを使用を選択する場合、コレクションを機能させるには一部のコレクションを作成し直す必要がある場合があります。

## 検索パターンファイルの移行

検索パターンファイルを移行するかどうかは選択できます。移行する必要があるのは、デフォルトのパターンファイルをカスタマイズした場合だけです。

# アプリケーションの移行

サーバの設定値およびデータを移行したら、iPlanet Web Server 6.0 上で動作するようにアプリケーションにも変更を加える必要がある場合があります。

## NSAPI アプリケーションの移行

iPlanet Web Server 4.x で使用した NSAPI プログラムのほとんどは、コンパイルし直さなくても iPlanet Web Server 6.0 で動作します。一部のドキュメント化されていないデータ構造は、`nsapi.h` から削除され、公開されることはありません。プラグインでこれらのデータ構造を使用する場合、記述し直してアクセサ関数を使用する必要があります。現在非公開になっているデータ構造は、`nsapi_pvt.h` で定義されています。これは、情報を提供する目的でビルドに付属しています。

カスタム NSAPI プラグインは、自動的に新しいサーバディレクトリにコピーされません。カスタムプラグインがある場合は、新しいサーバの `magnus.conf` に示されているアップグレードされたパスにプラグインをコピーしてください。

これらのデータ構造および新しいアクセサ関数については、iPlanet Web Server の『NSAPI プログラマーズガイド』を参照してください。

## Java サブレットの移行

サーバの移行後は、iPlanet Web Server 4.x で動作した Java サブレットは、コンパイルし直さなくても 6.0 で動作します。移行後も、4.x のサブレットは元のディレクトリに残ります。移行されたサブレットは、互換モードで動作します。互換モードでは、移行されたサブレットはほかの 6.0 サブレットより動作が少し遅くなることがあります。

また、4.x のサブレットで追加のファイルを参照していた場合は、それらのファイルへのパスを JVM クラスパスに追加する必要があります。クラスパスを更新するには、サーバマネージャの「Java」タブの「Configure JVM Attributes」ページを使用します。

4.x のサブレットおよび JSP は iPlanet Web Server 6.0 で修正しなくても正常に動作しますが、アプリケーション開発者は、それらのサブレットおよび JSP を Web アプリケーションとして記述し直せば、新しい機能を利用できます。

---

**注** Java サブコンポーネントのインストール時にインストールした構成ファイルには `.default` で終わるファイルのセットが含まれます (たとえば、`rules.properties.default`)。これらのファイルには、Java 構成ファイルのデフォルト値が含まれています。移行中、Java 構成ファイルは前のバージョンから変更されません。古いファイルを新しい設定に更新する場合、`.default` ファイルを参照してください。また、将来、iPlanet Web Server 6.0 のデフォルト設定に戻す場合にも、`.default` ファイルを参照できます。

---

## サーバサイド Java アプレット (HttpApplet)

サーバサイド Java アプレット (HttpApplet) はサポートされていません。代わりに、Java サーブレットを使用します。サーバサイド Java アプレットをサーブレットとして記述し直してインストールし直す必要があります。



# 索引

## A

ACL、移行, 62  
Administration Server、設定値の移行, 61

## C

CNAME、DNS, 15  
Communicator、インストール, 19  
Compaq Tru64 UNIX、バージョン, 12  
Console、iPlanet Web Server との統合, 23

## D

.default ファイル, 56, 64  
Directory Server、インストール, 20

## H

HP-UX、バージョン, 12  
HTTP Java アプレット、移行, 64

## I

IBM AIX、バージョン, 12  
install.inf, 39  
IWSSessionManager, 57

## J

Java アプレット、移行, 64  
Java 構成ファイル, 56  
Java サブレット、移行, 57, 63  
JDBCSessionManager, 57  
JDK  
    入手, 22  
    必須バージョン, 22  
JRE コンポーネント, 30, 47  
JSP (Java Server Pages)、4.0 からの移行, 57

## L

Linux、バージョン, 12  
Linux ユーザアカウント, 15  
LocalSystem ユーザアカウント, 16

## M

MMapSessionManager, 58

## N

Netscape Communicator, 19

nobody ユーザアカウント, 15

NSAPI アプリケーション、移行, 63

## O

obj.conf、使用されなくなった指令, 59

## P

.properties ファイル, 57

## R

Red Hat Linux、バージョン, 12

## S

Setup の実行

NT, 44

UNIX, 28

Sun Solaris、バージョン, 12

## T

template.inf, 35

## U

UNIX へのインストール, 25

UNIX ユーザアカウント, 15

## W

web-apps.xml, 56

web.xml, 56

Windows NT のインストール, 43

Windows NT、バージョン, 12

## あ

アンインストール

UNIX, 41

Windows NT, 52

## い

移行

ACL, 62

Administration Server の設定値, 61

Web サーバの変更点, 56

アプリケーション, 63

概要, 55

仮想サーバ, 58, 61

検索, 62

証明書, 62

設定値およびデータ, 59

ユーザおよびグループ, 61

インストール

Communicator, 19

Directory Server, 20

iPlanet Console, 21

JDK, 22

JRE, 30, 47

UNIX, 25

アンインストール, 41

高速インストール (Express installatin), 32

標準インストール (Typical installatin) またはカスタムインストール (Custom installatin), 28

Windows NT, 43

アンインストール, 52

概要, 18

コアコンポーネント, 29

サブコンポーネント, 46

準備, 11

スクリプトから, 49

スクリプトの使用, 39

ダウンロードしたサーバ, 27, 44

必要なユーザアカウント, 25

複数のマシンへの, 35

## お

オンラインヘルプ, 9

オンラインマニュアル, 9

## か

開始スクリプト、移行, 59

仮想サーバ、移行, 58, 61

## き

技術的要件, 14

## け

検索、移行, 62

## こ

コアコンポーネント, 29

構成ファイル、移行, 56

## さ

サーバ移行ページ, 60

サーバ、削除, 41, 52

サーバのユーザアカウント, 15

サーバ名

    CNAME, 15

    エイリアス, 15

    変更, 15

サーバレット、移行, 57, 63

サイレントインストール, 35, 39, 49

サブコンポーネント, 29, 46

サポートするプラットフォーム, 12

## し

使用されなくなった機能, 58

証明書、移行, 62

シンプルセッションマネージャ, 57

シンボリックリンク, 59

## そ

ソフトウェア要件, 13

## て

停止スクリプト、移行, 59

適正なユーザでのログイン, 25

テンプレートインストール, 35

## と

ドキュメント、関連, 9

ユーザおよびグループ、移行, 61

## は

ハードウェア要件, 13

UNIX, 13

Windows NT, 14

パッチ、必須, 12

## ふ

ファイルの解凍

NT, 44

ファイルの展開

UNIX, 26

ブラウザ要件, 13, 14

プラットフォーム、サポート, 12

プラットフォーム要件, 12

## ほ

ポート番号, 17

## ま

マニュアル、オンライン, 9

マニュアルの表記規則, 8

## ゆ

ユーザアカウント

LocalSystem, 16

nobody, 15

Windows NT, 16